

前年度パナソニック社員賞受賞校インタビュー

飛渡川をよく知ってもらうために
撮り方を工夫をしました

パナソニックの多くの社員から支持された作品に贈られるパナソニック社員賞。

2021年度、見事に受賞した新潟県十日町市立飛渡第一小学校の皆さんに、制作当時のことを伺いました。

——昨年度は、パナソニック社員賞受賞おめでとうございます。

庭野さん パナソニックの社員の方たちに認めてもらったのが嬉しかったです。

井嶋さん 音のズレもあったので賞をとれるなんて思ってもいませんでした。

諸江先生 自分は今年度から飛渡第一小学校で勤務しているのですが、昨年度KWNの賞を受賞したと聞いて、素晴らしい取り組みをしている学校なんだなと思いました。

多田さん ここにいる4人を中心に、あとは1年生2人の計6人で頑張りました。

——学校の裏を流れる飛渡川が主役ですが、テーマをどうやって決めましたか？

多田さん 4人それぞれ案を出し合って、その中から選びました。最終的には、去年指導してくれた佐藤校長先生が選んだのですが、4人とも地元を流れる飛渡川をテーマにした案を出していたんです。

庭野さん 3年前から飛渡川については授業で勉強してきたので、テーマが決まった時は、飛渡川のことを多くの人に知ってもらえるとワクワクしました。

——脚本は誰の担当でしたか？

波形さん 基本的には4人で話し合いながらでしたが、細かい部分は先生がまとめてくれました。

——作品には皆さん出ていましたが、スタッフとしての役割は？

多田さん 僕は監督とカメラマンです。井嶋君もカメラ、庭野さんと波形君はナレーションでした。

——作品では、いろいろな人がインタビューを受けていましたね。



飛渡川での撮影は午前中が多かった



写真左から、庭野楓さん(5年生)、多田幸弘さん(5年生)、波形誓生さん(4年製)、井嶋銀造さん(4年生)



今年度KWNの撮影で子どもたちを指導する諸江雄斗先生

多田さん 飛渡川に詳しくな人を先生に聞いて、一番知っていそうな人をお願いしました。

波形さん インタビューは4人一緒に行ったのですが、いろいろな話が聞けて勉強になったし、面白かったです。

——撮影はどうでしたか？

波形さん 普段あまり川の中に入ることがなかったのですが、撮影で入るなどして楽しかったです。

井嶋さん 確かに撮影が終わって、そのまま川遊びをしたのはいい思い出です。

庭野さん 身近な飛渡川を多くの人に知ってもらうために、どういう撮り方をしたらいいのか、考えながら撮影するのは楽しかったです。大変だったのも撮影で、ほぼ毎日のように時間に追われていました。

多田さん 僕は楽しいというよりも一番心に残ったのは、川岸をコンクリートで固める理由がわかったこと。安全と自然の板挟みで複雑な気持ちになりました。

——今年は諸江先生がKWNの指導をしているそうですが、子どもたちを見ていて、どんな時に成長を感じますか？

諸江先生 1つの作品をみんなで作り上げるために、積極的に行動しようとする意識を感じた時です。今では、私の支援がなくてもプレゼンや動画の編集を進められるようにもなりました。

——最後に、これから参加を考えている人たちにアドバイスをお願いします。

波形さん 物語がきちんと整理されていないと観ている人に内容が伝わらないので、伝えたいことをきちんと整理することが大事だと感じました。

諸江先生 動画にたくさんの内容を入れようとすると、制限時間に収まらなかったり、制作に時間がかかり過ぎたりしてしまうので、何を伝えたいのかをはっきりさせ、できるだけ短い言葉でシンプルに伝えるようにすると、動画が作りやすいと思います。



🏆 2021年度KWN日本コンテスト
パナソニック社員賞受賞作品

『飛渡川の
自然を守ろう』

制作：新潟県 十日町市立飛渡第一小学校
グループ名：飛渡第一小学校

学校の裏に流れている自分たちにとっては身近な川を題材にして、自然の大切さや環境破壊、災害など課題を浮き彫りにするだけでなく、インタビューを通して課題解決にまで踏み込んだ作品。